



中村桂子／著
老いを愛づる
 生命誌からのメッセージ

110×173mm 208頁 定価902円(税込)
 発行所：(株)中央公論新社
 〒100-8152 東京都千代田区大手町1-7-1
 TEL 03-5299-1730 <https://www.chuko.co.jp/>
 ISBN：978-4-12-150759-4

[評者] 岐阜大学名誉教授 ^{たかみざわ かずひろ}
高見澤 一裕

評者は、若い頃、生化学や勃興期にあった分子生物学、生命科学を環境問題・廃棄物問題の理解と解決のために利用できないかと考え、これらの分野の文献をむさぼり読んだ時期があった。その当時光り輝いていた研究者の一人が三菱化成生命科学研究所・JT生命誌研究館の中村桂子先生である。中村桂子先生は専門分野での業績はもちろん、一般向けの数多くのご著書があり、平たいやさしい語り口で執筆されている。今回紹介する「老いを愛づる 生命誌からのメッセージ」はその中で最新刊で、38億年の歴史がある生命・生物の履歴に立脚して、次世代への「いのちのバトン」のつなぎ方を述べられている。タイトルからは、老人向け、退職者向けの本のようにとらえられるが、若い方々にぜひ読んでいただきたい書物である。

環境に興味のある方の多くが一度は聞いたことのあるいろいろな方々の「老いを愛づるヒント」「孫を愛づる」「老い方上手な人たち」の言葉から、ヒトが生き物らしく自然体で暮らすメッセージを伝えている。それらは「そんな時代があった

のねといつか話せる日が来るわ」(中島みゆき)、「これでいいのだ」(パカボン)、「私は貧しいではありません。質素なのです」(ムヒカ大統領)、「武器ではなく水を送りたい」(中村哲)などである。大人への疑問を投げかけたグレタ・トゥンベリさんと同じような指摘を30年前のリオデジャネイロでの地球サミットで行ったセヴァン・スズキさん(当時12歳)の演説も思い起こされた。

自然界にごみはない。人間も生きものだから、自然の摂理に素直になろう。ただ気がかりなのは、環境、感染症、戦争、競争社会等々。

「どうも今、脱炭素とおっしゃっている方は、自然との関係に目を向けず、すべてを新しい技術で解決しようとしているように見えます。もちろん技術も大事ですが、皆が少し優しい気持ちになることが今一番大事なことはないかと思っています。そうすると私たちの体の中でも自然界でも、たくさんの炭素化合物が循環をして、二酸化炭素だけが増えることはなくなります。優しいという字は人を憂うと書きますね。自分のことだけ

でなく人のことを心配し、大切にすることを大切にすれば、地球は暮らしやすい星になります。それは子供の時代、孫の時代までつながります」。これが、老い方上手な先達から学んだ、次世代への「いの

ちのバトン」のつなぎ方であろう。

本書を読み終えたのち、ふと、フーテンの寅さんに会いたくなり、帝釈天に足を延ばした。

「キリがありませんから」、いい言葉です。



©2023 高見澤 一裕 この記事はクリエイティブ・コモンズ【表示・非営利 4.0 国際】ライセンスの下に提供されています。 <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/deed.ja>



三砂ちづる／著
 親子のきずなが深まる
おむつなし育児

180×210mm 128頁 定価1,650円(税込)
 発行所：(株)主婦の友社
 〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1目黒セントラルスクエア
 TEL 03-5280-7551
 ISBN：978-4-07-445216-3

[評者] 東京農業大学 国際食料情報学部 食料環境経済学科 ^{ののむら まき}
野々村 真希

現代の日本社会では、赤ちゃんはおむつで生活することがあまりに当然になっていて、本書のタイトルを見た人は少なからず、「えっ、おむつなしで育児!? なにかの過激な育児法の一つかな?」と思ってしまうかもしれません(三砂先生ごめんなさい)。けれど読み始めれば、それは誤解であることに気がきます。おむつなし育児の根底にある哲学は、赤ちゃんの「おしっこしたい」「ウンチしたい」という気持ちに寄り添ってあげたいというごくごく自然なものであり、実践方法もとても自由でゆるく、こうしなくてはいけないというのは全くないことが、本書では繰り返し語られています。

内容としては、おむつなし育児とはどんなものか、世のお母さんはどんな風に実践しているのか、うまく楽しく実践するコツ、便利なグッズなどが、かわいいイラストとともに紹介されていて、おむつなし育児に興味がある、チャレンジしてみたい人に向けて書かれた本となっています。が、紙おむつでの育児から変えるつもりのない人や、もうおむつを卒業したお子さんをお持ちの方にもおすすめ。きっと、おむつの話題を超えて、いろいろな子育ての仕方、生き方があるんだなあ、こうするものって思いこんでいたけどそうじゃないやり方がいっぱいあるんだなあ、気づきをもたらしてくれるはずですよ。



©2023 野々村 真希 この記事はクリエイティブ・コモンズ【表示・非営利 4.0 国際】ライセンスの下に提供されています。 <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/deed.ja>